

## 平成30年度 社会科 第1学年 学習指導・評価計画

## 1 社会科の学習指導のねらいおよび目標

グローバル化する社会において、国際的な広い視野をもつために他国の生活や日本との繋がりを学ぶ。また、日本の歴史や文化に対する興味関心を深め、主体的に自国のことについて学ぶ姿勢を養う。

## 2 社会科の学習で大切なこと

【地理的分野】1年生では、資料を活用して、外国の人々の生活を想像する、または日本との繋がりを考えるということが大切となる。そのため、基本的な地理的位置関係の把握や、資料を活用する技能が大切となる。

【歴史的分野】一つ一つの歴史的事象を結びつけて考えることが大切となる。そのため、まずは大きな時代区分を理解し、そこから細かく学習していくことを覚える。

## 3 思考力・判断力・表現力を高めるには

写真、グラフ、地図帳など、様々な資料を活用して必要な情報を見つけ、課題に対する答えをまとめる作業を行う。

## 4 家庭学習の進め方

社会科では特に前時で学んだこととの繋がりが大切であるため、ノートを使って復習することが大切。また、資料を集めて行う宿題も多くあるため、授業の中で資料やグラフを積極的に読み取ること。

## 5 評価について

定期考査で、語句の理解や資料活用の力などを見る。それ以外には、授業中のノートや自分の意見をまとめたプリントなどで、日々の学習の様子も評価対象とする。

## 【評価の観点およびその趣旨】

観 点	趣 旨
1 社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な事象に対する関心を高め、それらを意欲的の追求し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。
2 社会的な思考・判断・表現	社会的な事象から課題を見だし、社会的な事象への意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
3 資料活用の技能	社会的な事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
4 社会的な事象についての知識・理解	社会的な事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。

## ◇年間指導（学習）・評価計画

学期	月	領域 単元	学習内容	評価の観点	評価規準または基準	評価の方法 評価材料
一 学 期	4月	地理的 分野	<地理的分野> 第1部 世界のさまざまな地域 1. 世界の姿(6) 2. 世界各地の人々の生活と環境(13) 3. 世界の諸地域・アジア州(5)	○地理的事象に対する関心を高め、広い視野で我が国、世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。【関心・意欲・態度】	○国の大小、国境の意味などを様々な視点から大観させ、世界地理への関心を高める。 ○地球儀や世界地図などを活用して、緯度経度による地球上の位置の表し方などの知識や技能を身につけさせる。 ○異なる自然環境と人々の生活の特色をとらえさせる。 ○各州の特色を、自然環境、歴史、生活、文化、産業、結び付きなどの面からとらえる。 ○雨温図・主題図・写真の読み取りや比較・関連づけなどの地理的スキルを身につけさせる。 ○関心がある国を追求・探求し、意欲的に取り組むようにする。	定期考査  プリント (授業内の話し合い活動)  提出物  ワークシート
	5月					
	6月					
	7月					

<p>一 学 期</p>	<p>4・5 月  6・7 月</p>	<p>歴史的 分野</p>	<p>&lt;歴史的分野&gt; 第1章 歴史の移り 変わりを考えよう (1) 第2章 原始・古代 の日本と世界 ・人類の出現と文明 のおこり(5) ・日本の成り立ちと 倭の王権(5)</p>	<p>●歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。【思考・判断・表現】</p>	<p>●歴史に関心をもち、時代区分の方法・年代の表し方について理解する。 ●人類が出現し、やがて世界各地で古代文明や宗教がおこったことを理解する。 ●日本列島で狩猟・採集を営んでいた人々の暮らしの変化について考える。 ●日本列島で国家が形成されていく過程を東アジアとのかかわりを通して理解する。</p>	
<p>二 学 期</p>	<p>9   12 月</p>	<p>地理的 分野  歴史的 分野</p>	<p>&lt;地理的分野&gt; ・アジア州(6) ・ヨーロッパ州(6) ・アフリカ(5) ・北アメリカ州(6) ・南アメリカ州(6) ・オセアニア州(5)</p> <p>&lt;歴史的分野&gt; ・大帝国の出現と律 令国家の形成(5) ・貴族社会の発展(4)</p> <p>第3章 中世の日本と世界 ・世界の動きと武家 政治の始まり(7)</p>	<p>○世界の地理的 特色を地域の規 模に応じて環境 条件や人々の営 みなどと関連づ けて多面的・多 角的に考察し、 えをまとめて発 表する。【思考・ 判断・表現】</p> <p>●我が国の歴史 の大きな流れと 各時代の特色な どを我が国の歴 史と関連のある 世界の歴史を背 景に理解し、その 知識を身に付け ている。 【知識・理解】 ●歴史的事象に 関する関心を高 め、それを意欲 的に追究し、広 い視野に立って 我が国の文化と 世界との関係に ついての自覚を もつとすること を【関心・意欲・ 態度】</p>	<p>○異なる自然環境と人々の生活の特色をとらえさせる。 ○各州の特色を、自然環境、歴史、生活・文化、産業、結び付きなどの面からとらえる。</p> <p>●中国や地中海地域に統一国家が成立し、東西の交流がおこなわれたことを理解する。 ●天皇や貴族の政治が展開し古代国家が発展していったことや文化の国風化が進んだことを理解する。 ●13世紀ごろの世界では、ユーラシア大陸をまたぐ広大なモンゴル帝国(元)が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解している。 ●日本では、武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配が全国的に広まったことを理解するとともに、武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考えている。</p>	<p>夏期休業中の 課題</p> <p>定期考査</p> <p>プリント (授業内の話 し合い活動)</p> <p>提出物</p> <p>ワークシート</p>
<p>三 学 期</p>	<p>1   3 月</p>	<p>地理的 分野  歴史的 分野</p>	<p>&lt;地理的分野&gt; 4. 世界のさまざま な地域の調査(10)</p> <p>第2部 日本のさま ざまな地域 1. 日本の姿(5)</p> <p>2. 世界と比べた日 本の地域的特色(6)</p> <p>&lt;歴史的分野&gt; ・ゆれ動く武家政治 と社会(9)</p>	<p>○日本の地理的 特色を地域の規 模に応じて環境 条件や人々の営 みなどと関連づ けて多面的・多 角的に考察し、構 成に判断する。【思 考・判断・表現】</p> <p>○資料を収集し、 読み取ったり図 表などにまとめ たりしている。 【技能】</p> <p>●年表や歴史地 図、映像など歴 史に関する様々 な資料を収集し 、有用な情報を 適切に選択して 活用するととも に、追究し考察 した過程や結果 を年表や報告書 などにまとめたり 、発表や討論な どを行ったりす る。 【技能】</p>	<p>○これまでの学習をふりかえ って、もっと調べたい国や地 域、疑問をもっている国や地 域を選び、調べるテーマや手 順を決める。 ○地球儀や地図を活用し、我が 国の国土の位置、世界各地との 時差、領域の特色と変化、地 域区分などを取り上げ、日本 の地域構成を大観させる。</p> <p>●南北朝の争乱と室町幕府の 成立、応仁の乱後の社会的な 変動と戦国の動乱について、 東アジア世界との密接な関 わりとともに理解している。 ●農業などの諸産業が発達し 、畿内を中心とした都市や農 村に自治的なしくみが成立し たことを理解するとともに、 室町文化には禅宗の影響があ ることや現在との結び付きが 見られることに気付いている。</p>	<p>定期考査</p> <p>プリント (授業内の話 し合い活動)</p> <p>提出物</p> <p>ワークシート</p>

## 平成30年度 社会科 第2学年 学習指導・評価計画

## 1 社会科の学習指導のねらいおよび目標

皆さんは大人になったら、社会人として活躍することになります。今年は日本の地理と中世以降の歴史を学習します。社会で起きていることがらに関心をもって、いろいろな見方によって考え、そのことが正しいのか正しくないのかを判断できるように学んでいくことが大きなねらいとなります。

## 2 社会の学習で大切なこと

歴史は、年表とともに時代の流れや歴史的背景等をよくイメージして理解してください。地理は、地図とともにそれぞれの地域の特色をよくイメージして、関心をもって意識して考えてみてください。そして、常にいろいろな角度から見て、いろいろな方面から考えることを行ってください。

## 3 思考力・判断力・表現力を高めるには

【思考力】授業中に、必ず「なぜなんだろう、なぜこうなるんだろう」と疑問をもって授業に取り組んでください。【判断力】最終的には「どうすることがベストになるんだろう」と最終結論を各自出してください。【表現力】自分で出した結論を発表していただきます。みんなによく理解してもらえるように、発表内容の工夫を高めていってください。

## 4 家庭学習の進め方

教科書をよく読み、ノートに書いたことやワークシート、プリント等をよく見直し、ワークブックをしっかりとやり、理解してください。授業中によく理解できなかったところを中心に復習を行ってください。理解できないところは、先生に質問に来てください。

## 5 評価について

各定期テストの点数、ワークシート・プリント・ノート・ワークブック・レポート等の内容、小テストの点数、授業中の発表、プレゼンテーション等の総合成績で評価を出します。

## 【評価の観点およびその趣旨】

観 点	趣 旨
1 社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な事象に対する関心を高め、それらを意欲的 pursuit し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。
2 社会的な思考・判断・表現	社会的な事象から課題を見だし、社会的な事象への意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
3 資料活用の技能	社会的な事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
4 社会的な事象についての知識・理解	社会的な事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。

## ◇年間指導(学習)・評価計画

学期	月	領域 単元	学習内容	評価の観点	評価規準 または基準	評価の 方法 評価材料
一 学 期 4 / 6 ~ 7 / 20	4月	【歴史 的分 野】 第3章 中世の 日本と 世界	2 ゆれ動く武 家政治と社会 (6) 1 結びつく世 界との出会い (4)	・社会的事 象への関 心・意欲・ 態度 ・社会的な 思考・判断 ・表現	・南北朝の騒乱と室町幕府、東アジアの国際 関係、応仁の乱後の社会的変動などを通し て、武家政治の特色を考える。 ・ヨーロッパでのルネサンス、宗教改革、新 航路の開拓などの動きや、日本に来航した背 景や目的を理解し、日本の社会へ及ぼした影 響について考える。	・ノー ト、ワー クブック 等の提出 物、授業 観察、 定期テス ト、授業 内ワーク シート、
	5月	第4章 近世の 日本と	2 天下統一へ の歩み(3) 3 幕藩体制の	・資料活用 の技能 ・社会的事	・町人文化が都市を中心に形成されたこと や幕府の政治改革を理解する。 ・幕府が対外政策を転換して開国したこと	

	6月	世界	確立と鎖国(4) 4 経済の成長と幕政の改革(5) 第2章 世界と比べた日本の地域的特色(11) 第3章 日本の諸地域 1節 九州地方(5)	象についての知識・理解	と、その政治的及び社会的な影響を理解する。  ・世界的視野から日本の地形や気候の特色を理解するとともに、自然災害と防災への関心をもつ。  ・九州地方の地域的特色について環境問題の取り組みを中核として、自然環境や産業、地域開発の動向、人々の生活などに関連づけて考察する。	提出物、発表内容、小テスト、他
	7月	【地理的分野】 第2部 日本のさまざまな地域				
二学期 7/21 ~ 12/25	9月   10月   11月   12月	【歴史的分野】 第5章 近代の幕開け 第6章 近代の日本と世界  【地理的分野】	1 近代世界の確立とアジア(5) 2 開国と幕府政治の終わり(4) 1 明治維新と立憲国家への歩み(7)  2節 中国・四国地方(5) 3節 近畿地方(5) 4節 中部地方(5) 5節 関東地方(6) 6節 東北地方(5)	・社会的事象への関心・意欲・態度 ・社会的な思考・判断 ・表現 ・資料活用の技能 ・社会的事象についての知識・理解	・欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国がアジアへ進出したことを理解する。  ・新政府による諸改革により近代国家のものが整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解する。  ・人口や都市・農村を中核として、自然環境、産業などの面を関連づけて考察する。 ・歴史的背景を中核として、自然環境、産業・文化、人口などの面を関連づけて考察する。 ・中部地方の各地域の自然環境や社会的条件の違いによる農業や産業などの違いに着目させて地域的特色をとらえる。 ・他地域との結びつきを中核として、自然環境、産業、人口などを関連づけて考察する。 ・伝統的な生活や文化は交通の発達や国際化など他地域との結びつきによって変化していくものであることをとらえる。	・夏期休業中の課題ノート、ワークブック等の提出物、授業観察、定期テスト、授業内ワークシート、提出物、発表内容、小テスト、他
三学期 1/26 ~ 3/25	1月   2月   3月	【歴史的分野】   【地理的分野】	2 激動する東アジアと日清・日露戦争(6) 3 近代の産業と文化の発展(4) 7節 北海道地方(5) 8節 身近な地域の調査(10)	・社会的事象への関心・意欲・態度 ・社会的な思考・判断 ・表現 ・資料活用の技能 ・社会的事象についての知識・理解	・自由民権運動、大日本帝国の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解する。  ・自然環境を中核として歴史、産業、生活、文化などの面を関連づけて考察する。 ・7地方区分の学習成果をつなぎあわせ、広い視野から日本全体の地域的特色をつかむ。 ・調査を通して地域的特色をとらえる視点や方法、まとめ方、発表方法をみにつける。	・冬期休業中の課題ノート、ワークブック等の提出物、授業観察、定期テスト、授業内ワークシート、提出物、発表内容、小テスト、他

平成 30 年度 社会科 第 3 学年 学習指導計画・評価計画

1. 社会科の学習指導のねらいおよび目標  
社会に対する関心を高め、いろいろな資料からいろいろなことを考え、日本の国土と歴史を理解し愛情を深め、日本人の大人としての基礎的な事柄を身に付け、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の一員として必要な教養の基礎を身に付ける。
2. 社会の学習で大切なこと  
歴史は、年表とともに時代の流れや歴史的背景等をよくイメージして理解してください。公民(政治・経済)は、日本で実際に今行われている状況に関心をもって、意識して考えてみてください。そして、常にいろいろな角度から考えることを行ってください。
3. 思考力・判断力・表現力を高めるには  
【思考力】授業中に、必ず「なぜなんだろう、なぜこうなるんだろう」と疑問をもって授業に取り組んでください。【判断力】最終的には「どうすることがベストになるんだろう」と最終結論を各自出してください。【表現力】自分で出した結論を発表していただきます。みんなによく理解してもらえるように、発表内容の工夫を高めていってください。
4. 家庭学習の進め方  
教科書をよく読み、ノートに書いたことやワークシート、プリント等をよく見直し、ワークブックをしっかりとやり、理解してください。授業中によく理解できなかったところを中心に復習を行ってください。理解できないところは、先生に質問に来てください。
5. 評価について  
各定期テストの点数、ワークシート・プリント・ノート・ワークブック等の内容、小テストの点数、授業中の発表、等の総合成績で評価を出します。

【評価の観点およびその趣旨】

観 点	趣 旨
1 社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な事象に対する関心を高め、それらを意欲的 pursuit し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。
2 社会的な思考・判断・表現	社会的な事象から課題を見だし、社会的な事象への意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
3 資料活用の技能	社会的な事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
4 社会的な事象についての知識・理解	社会的な事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。

◇年間指導(学習)・評価計画

期	月	領域	学習内容	評価の観点	評価規準	評価の方法
1 学 期	4	公民	1 節 現代社会の特色と私たち(7 時間)	・ 社会的な事象への関心・意欲・態度 ・ 社会的な思考・判断・表現 ・ 資料活用の技能 ・ 社会的な事象についての知識・理解	・ 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付く。また、現代社会における文化の意義や影響を理解するとともに、我が国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義に気付く。 ・ 人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考え、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付く。	・ 定期テスト ・ 授業観察 ・ プリント ・ 提出物 ・ ワークシート ・ ノート ・ ファイル ・ ワークブック ・ 小テスト ・ グループ活動
	5	現代社会と私たちの生活(18 時間)				
	6	2 節 私たちの生活と文化(4 時間)				
	4 /	3 節 現代社会の見方や考え方(7 時間)				
	6 /					
	7 /					
	2					
0	4	歴史	1 明治維新と立憲国家の歩み(6 時間)	・ 日本の近代国家の基礎形成を、改革・外交・経済・文化等の面から理解している。 ・ 条約改正の対外戦争で、日本の国際的地位の向上や大陸との関係を理解している。 ・ 産業革命が国民生活に与えた影響について経済の変化と人々の生活の変化との関わりから多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・ 第一次世界大戦の背景とその影響、大戦後の国際平和への努力を、日本の動きと関わらせて理解している。 ・ 帝国主義政策から大戦後の動きまでを、多面的・多角的に考察し、表現できる。また、大戦後の日本の動きを政治・社会・文化を関連づけて考察し、表現できる。		
	5	第 6 章 (12 時間)	2 激動する東アジアと日清・日露戦争(3 時間)			
	6	3 近代の産業と文化の発展(3 時間)				
	7	第 7 章 (9 時間)	1 第一次世界大戦と民族独立の動き(6 時間)			
			2 大正デモクラ			

			シー(3時間)			
2 学期 7 0 / 2 1 ~ 1 1 2 / 2 1 5 2	9	公民 第2章 個人の尊重と 日本国憲法 (16時間)	1節 人権と日本国憲法(5時間) 2節 人権と共生社会(7時間) 3節 これからの人権保障(4時間)	・社会的 事象への 関心・意 欲・態度 ・社会的 な思考・ 判断・表 現 ・資料活 用の技能 ・社会的 事象につ いての知 識・理解	・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解するとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考える。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。 ・地方自治の基本的な考え方について理解する。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てている。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義の意義について考えるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深める。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解するとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考える。その際、選挙の意義についても考える。	・夏期休業中の課題 ・定期テスト ・授業観察 ・プリント ・提出物 ・ワークシート ・ノート ・ファイル ・ワークブック ・小テスト ・グループ活動
	9	歴史 第7章 (10時間)	3 恐慌から戦争へ(5時間) 4 第二次世界大戦と日本の敗戦(5時間)	・世界の様々な動きと合わせて、日本の軍部の台頭から戦争までの経過を理解する。 ・欧州での戦争、日中、太平洋戦争を関連づけながら、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。また、平和の大切さについて、現在の世界の動きとともに学び、思いを深める。 ・第二次世界大戦後の世界の動きと日本の諸改革について多面的・多角的に考察できる。 ・世界の動きと日本の発展、国民生活の向上を理解できる。 ・これからどのように社会と関わればよいのかを自分なりに表現できる。		
	1 0 / 1 1 2 / 1 1 2	第8章 (9時間)	1 日本の民主化と冷戦(4時間) 2 世界の多極化と日本(3時間) 3 冷戦の終結とこれからの日本(2時間)		・身近で具体的な例を基に、経済に対する関心を高める。経済活動における選択、消費者の権利、流通について多面的。多角的に考えることができる。 ・企業の生産活動や社会的責任、株式会社の仕組みや現代企業の特徴を理解し、将来について意欲的に考える。	
	1 1 2	公民 第4章 私たちの暮らしと経済(14時間)	1 消費生活と経済(8時間) 2 生産と労働(6時間)			
3 学期 1 2 / 2 6 ~ 3 / 2 3	1	公民 第5章 地球社会と私たち(14時間)	1節 国際社会の仕組み(5時間) 2節 さまざまな国際問題(5時間) 3節 これからの地球社会と日本(4時間)	・社会的 事象への 関心・意 欲・態度 ・社会的 な思考・ 判断・表 現 ・資料活 用の技能 ・社会的 事象につ いての知 識・理解	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識し、国際社会における我が国の役割について考える。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えるとともに、核兵器などの脅威に着目し、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てている。また、地球環境、資源 ・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。	・冬期休業中の課題 ・授業観察 ・プリント ・提出物 ・ワークシート ・ノート ・ファイル ・ワークブック ・小テスト ・グループ活動
	1	公民 第4章 (16時間)	3 価格の働きと金融(6時間)		・企業や雇用についての課題を見つけ、その解決策について話し合い、考えを深めて表現できる。 ・日常生活と結びつけて、需要と供給、価格の関係について、多面的・多角的に考察できる。 ・公共サービスなどを調べ、政府の経済的な役割を理解する。また、少子高齢社会における社会保障についての課題を見つけ、解決策を話し合い、考えを深める。 ・グローバル化する世界の中で、日本経済の発展や環境問題、経済格差などについて自分の考えをもつことができる。	
	2 3		4 政府の役割と福祉(5時間) 5 これからの経済と社会(5時間)			